

**留学先国名** : アメリカ

**留学先学校名** : California State University, Fresno

**留学期間** : 平成 25 年 8 月 22 日 ~ 平成 29 年 5 月 22 日

私はもともと計画をしっかり立てるのが好きで、しかもせっかちなところがあるので何事も最短で目標に達成できるようにしていました。しかし、アメリカでは新卒採用という考えが無く、インターンシップをしてその人が使えるなら正規雇用するというパターンの方が圧倒的に多いと思います。なので、これから留学する方は「どうしたら早く卒業・就職出来るか」ではなく「どのようにしたらより多くの経験を積めるか」ということを考えながら一年生の時から計画を立てることをお勧めします。

より多くの経験を積む最初の一步の一つとして一人でも多くの教授と良い関係を築くという方法があります。このアドバイスを私も高校生の時に知人にもらっていたので、比較的学費が安く規模の小さなコミュニティカレッジに先に行くか、直接四年制の大学に入学するか迷った時にも、せっかくなら四年間同じ大学に通ってたくさん教授とコミュニケーションを取ろうと思い、四年制大学への進学を決めました。教授と仲良くなったおかげで私の大学生活がより豊かなものになったのは間違いありません。最初は自分の英語力が心配な人もたくさんいると思いますが、アメリカではオフィスアワーと言って教授が週に数回、授業外で生徒の質問を受ける時間を設けてくれます。私の大学の教授にはアメリカ人の学生よりも、オフィスアワーなどのサポートシステムを効率的に利用している留学生の方がよほどいい点数を取っている方がたくさんいました。私は授業で習ったことを応用することによって覚えていたので、教授が出す文章を読む課題以外にどのような文献を読めばいいかよく聞いていました。教授も自分の授業に興味を持って意欲的に取り組んでいる生徒のことは気にかけてくれて、授業以外のことも私に聞いてくれました。

私の専攻の犯罪学部は私の大学でも一二を争うほど大きい学部なのですが、一年生の時から学部の教授と積極的にコミュニケーションを取ってきたおかげで大学院に出願する際、インターンシップや奨学金を申し込む際に比較的スムーズに推薦状を教授に書いていただくことが出来ました。特に大学院に出願する際にはどこの学校も最低で3枚は（多いところは5枚も）推薦状を必要とするので、学期中で忙しいにも関わらず快く私のお願いを聞き入れて下さる教授を3人見つけることが出来たのはとてもありがたかったです。インターンシップは基本的に三年時にするので私の友達で三年時から編入してきた人たちは推薦状を書いてもらうほど交流のある教授を探すのは大変だったようです。

インターンシップで得た経験とコネクションは卒業後の進路にも大きく影響する場合がありますので、出来るなら一度は留学する際に経験しておくことをお勧めしておきます。インターンシップを単位に変換する場合には、学校によって異なる最低時間数があると思いますが基本的には100時間から120時間ほどなので、学期中に学業と両立する自信が無い方は夏休みや冬休みにすることを検討してみてください。私は夏休みにインターンシップも帰国もしたかったので東京にある国連アジア極東犯罪防止研修所（公用語は英語）で1か月間働かせてもらいそれを口実に帰国しました。その研修所は国連の機関なのですがインタ

ーンがまだ浸透していない日本にあるからなのか、インターンの問い合わせは一年に一人いるかないかだと担当の方がおっしゃっていました。私とその研修所について調べている時もインターンシップについての項目など無く、一か八かで自分の英語の履歴書と自分の研究をまとめた書類をメールで送りました。インターンシップ先に応募する際は「私には無理だろうな。」と思った研究所などにも積極的に応募しました。ありきたりな言葉ですが、「やらないで後悔するよりはやって後悔する」をモットーに留学生活は何事にもトライしてほしいと思います。留学期間が一年間でも四年間でも、勉強に海外生活にと挑戦の多い日々なので、あっという間に終わってしまいます。ですから在学中のアルバイトも学業を優先しながら出来る範囲であれば積極的にした方がいいと思います。私はインターンシップ以外にもリサーチアシスタントとして学部で三人の異なる教授のもとで働かせていただきました。もともと研究職に就きたいと思っていたのでアルバイトとしてお給料を頂いたことで将来のシミュレーションのようなことが出来、三年生の時には大学卒業後のプランもかなり細かく立てることが出来ました。大学卒業後の留学生のプランとしては大きく分けて、1) 日本に帰って就職する、2) アメリカで就職する、3) O P T の制度を使ってアメリカで一年間働く、4) 大学院に進学する、の四つがあると思います。私の場合はもともと学部を卒業してすぐに修士号を取るために大学院に進学する予定で、学部の最後の学期中に希望の大学院に受かっていました。ですが、博士号を視野に入れた際に自分の分野での経験が少ないと思い、大学院への入学を一年延期しその期間にO P T の制度を使って引き続き教授のもとで働かせてもらうことにしました。そしてその一年間の経験を活かして博士号に直接出願することにしました。私の研究の対象は性犯罪とギャングなどの組織犯罪です。特に日本とのコネクションを活かしてアジア特有の性犯罪と組織犯罪の研究をしていきたいと考えています。現在は日本でもニュースによく取り上げられている J K ビジネスの研究をしていて、去年書いた研究論文をあと半年以内に出版するために編集者の方に手伝ってもらってこの夏休みに手直しをしています。J K ビジネスという事象はアジアの国でも極めて異例で、アメリカでそれについての論文を発表することによって世界の注目が集まり、効率的にその違法行為が防止出来れば考えています。そして犯罪学の研究が進んでいるアメリカで研究の手法を学んでこれからも日本に貢献できるような研究をしていきたいと思っています。